妊娠中の身体的な変化に対する嫌悪感の程度を測定するための尺度の作成

○大森 美香¹・山宮 裕子^{1,2#}
 (お茶の水女子大学¹・テンブル大学ジャパン²)
 キーワード: 妊娠, 身体的変化, 尺度

The development of a scale to assess repulsion toward physical changes during pregnancy

Mika Omori¹ and Yuko Yamamiya^{1,2}

(Ochanomizu University¹, Temple University Japan²)

Key Words: pregnancy, physical change, scale development

目的

若年女性に多く見られる無理なダイエット行動の背景には、社会的なやせ理想の内面化や身体不満足感があると考えられている。厚生労働省により、日本の20～30代の女性の平均BMIは1970年代以降減少し続け、2013年には約300万人にのぼる女性のBMIが18.5以下であることが明らかにされている。このような低いBMIは、無月経や生理不順など、妊娠・出産に悪影響を与えることが報告されており (American Society for Reproductive Medicine, 2013; 檜原ら, 2007)、妊娠の適齢にある女性の多くが妊娠・出産に適さないほどのやせの問題をもつことが示されている。

妊娠期間中女性の体の変化の中でも、体重が増加し腹部が大きくなることは特に顕著な変化である。しかし社会的なやせ理想を内面化しやせ願望が高い若い女性にとって、これらの変化は受け入れがたいものであり、妊娠中に身体不満足感を持つことが想定される。実際に、先行研究からも、妊娠中の体重増加と身体不満足感の関連 (例: 丸山ら, 2011) が報告されている。

このように、妊娠中の体型や体重の変化と身体不満足感との関連に関する知見は蓄積されつつあるが、妊娠前 (青年期) のやせ理想の内面化や他人の身体との比較傾向が、妊娠中の身体変化に対する嫌悪感とどのように関連し、妊娠中の身体不満足感にどのように影響しているのかは不明である。本研究では、妊娠中の女性における、様々な身体的変化に対する嫌悪感に着目し、それを測定するための心理尺度を作成する。

方法と結果

1) 項目の収集

尺度の項目作成を目的に、過去数か月以内に出産を経験した女性3人に、妊娠中に起きた様々な身体的な変化とそれらに対する感情を自由記述してもらい、その内容を基にリストを作成した。さらに、妊娠を計画している女性や妊娠初期の女性を対象に運営されているウェブサイトにおいて産婦人科医の監修のもと書かれている内容を参考に、妊娠中に起こる身体的な変化のリストを作成した。それらの2つのリストを一つにまとめ、最終的に全20項目の暫定尺度を作成した。回答は「1 = 全く嫌ではない」から「5 = とても嫌だ」から選択するリッカート式である。

2) 項目の精査

尺度の妥当性の検証のため、質問紙調査を行なった。インターネット調査会社を通じ、妊娠後期の20代女性431人から回答を得た。しかし、妊娠中の体型変化の程度が小さくないと想定される肥満体型 (日本肥満学会の定義に基づきBMIで25以上を基準) の女性のデータは除外した。結果、最終的に404人分のデータが分析に使用された。最終的な参加者の平均年齢は26.33歳 (SD = 2.25) であり、平均BMIは19.84 (SD =

1.87) であった。

まず内的整合性の検証を目的としクロンバックの α について検討した。削除することで α の値が上昇することが示された1項目を削除した。

3) 因子分析

改訂Velicer's MAP (R-VMAP) テストにより、適切な因子数を算出したところ、4因子であることが示された。さらに探索的因子分析を行ったところ、4因子解が得られた。ここで、因子への因子負荷量が.40以下と低いもの、もしくは2つ以上の因子への因子負荷量が.30以上、または因子負荷量の差が.20以下の項目を削除した。その結果、最終的に16項目が残った。その16項目で再度探索的因子分析とR-VMAPテストを行い、その両方で引き続き4因子が適切であることが確認された。したがって、最終的に16項目、4因子構造の尺度が作成された。第一因子は5項目からなり、『全体的な外見の変化』と名付けられた ($\alpha = .87$)。第二因子は5項目からなり、『体型・体重の変化』と名付けられた ($\alpha = .90$)。第三因子は4項目からなり、『服装の変化』と名付けられた ($\alpha = .79$)。第四因子は2項目からなり、『胸の変化』と名付けられた ($\alpha = .90$)。各因子の項目と因子負荷量は、表1のとおりである。

考察

本研究の目的は、妊娠中に起こる身体的変化に対する嫌悪感の程度を測定するための新しい尺度を作成することである。この尺度により測定される嫌悪感が、妊娠前はやせ理想の内面化、やせ願望、そして他人の身体との比較傾向等の要因とどのように関係し、妊娠中の女性のボディイメージにどのような影響を与えるのかを検証していくことにより、妊娠中の女性の身体不満足感を防ぐための予防的介入プログラムの構築に繋がることが期待される。

謝辞

本研究は、JSPS科研費 JP18K03090の助成を受けたものである。

表1

各因子の項目と因子負荷量

	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子
1. 脇肉が落ち、体がたるんだ感じになる	0.875	-0.068	-0.018	-0.127
2. 乳輪の色が濃くなる	0.832	-0.138	0.051	0.123
3. 左右の乳房の間隔が広くなる	0.732	0.028	0.003	0.192
4. 手足がむくむ	0.675	0.106	-0.079	-0.083
5. お尻が大きくなる	0.602	0.206	0.068	-0.076
6. 下腹部が少しふくらする	-0.078	0.842	0.114	-0.09
7. 腹の上から見てもお腹のふくらみかわかる	-0.114	0.825	0.088	0.029
8. お腹全体が膨らんだ風船のように大きくなる	0.047	0.799	-0.08	0.129
9. 妊娠が大きく前にせり出し立つときのけぞる	0.156	0.731	-0.121	0.107
10. 妊娠前の体重が標準体型の人は7~12kg、やせ型の人は9~12kg増える	0.197	0.605	0.064	-0.081
11. ゆったりした大きめのサイズの下着をつける	0.092	-0.097	0.788	-0.001
12. ヒールがないフラットな靴を履く	-0.06	0.019	0.704	0.031
13. Aラインのゆるめの服を履く	-0.117	0.067	0.607	0.11
14. マタニティウェアや妊婦服と呼ばれる服を履く	0.107	0.174	0.849	-0.092
15. 胸がかなり膨らみブラジャーのサイズが最大約2カップ大きくなる	-0.042	0.017	-0.009	0.958
16. 胸が少し膨らみ始める	-0.001	0.031	0.072	0.805